

花巻城

散策ガイドマップ

花巻城は、戦乱を生き抜いた藩主にとって、他国からの侵略を防ぎ、領国の平和を保つ上で、最も重要な盛岡藩南端の一大拠点であった。城と城下町の整備は、近世花巻地方ばかりではなく、領内の繁栄を占う大事業であり、時代と地勢および人心を読み、大胆にして緻密な計画に基づいて展開された。そして花巻城は、戦乱期から藩政期の激しく厳しい時代を経て、花巻の今を育んだ貴重な遺産として、我々はその歴史と文化を大切にしなければならない。

周辺地図



【所要時間】

- 花巻城…JR花巻駅から徒歩10分
- 同心屋敷…JR花巻駅からバスで12分
- 花巻市博物館…東北新幹線新花巻駅から車で3分

花巻の交通・お問い合わせ

- JR
 - 新花巻駅……………TEL 0198-31-2124
 - 花巻駅……………TEL 0198-23-5226
- 路線バス
 - 岩手県交通(株)花巻駅前案内所……………TEL 0198-23-2221
- 観光案内
 - 花巻観光協会……………TEL 0198-29-4522/FAX 0198-29-4447
http://www.kanko-hanamaki.ne.jp/
 - 花巻観光センター(新花巻駅)……………TEL&FAX 0198-31-2244
 - 花巻観光案内所(花巻駅)……………TEL&FAX 0198-24-1931

花巻市教育委員会 文化財課

〒028-3163 岩手県花巻市石鳥谷町八幡第4地割161番地
TEL.0198-45-1311 FAX.0198-45-1321
http://www.city.hanamaki.iwate.jp/

花巻城と城下の主要年表

年号	西暦	出来事
天正18	1590	稗貫領主・稗貫広忠が小田原城攻めに参陣せず領地を没収される 8月、奥州仕置軍の浅野長吉(長政)が鳥谷ヶ崎城へ入城 10月、和賀・稗貫の郎党が蜂起し鳥谷ヶ崎城を攻める
天正19	1591	鳥谷ヶ崎城を花巻城と改める 北秀愛、稗貫・和賀二郡八千石の花巻郡代となる
文禄年間		四日町開町する
慶長3	1598	北秀愛が死去。父の北信愛(松斎)が郡代となる
慶長5	1600	和賀忠親、伊達氏の援軍を得て花巻城を夜襲、敗れて岩崎城に籠る
慶長6	1601	南部氏が岩崎城を攻め落とす
慶長14	1609	花巻城本丸の工事着手される
慶長18	1613	川口町・一日市町開く。北松斎が死去、墓所雄山寺
慶長19	1614	南部政直が花巻城主となり稗貫・和賀二万石を領す 二子城の追手門を引上げ、円城寺坂に建て円城寺門とする
寛永元年	1624	花巻城主、南部政直が死去。墓所宗青寺
寛永4	1627	花巻城代二人制始まる
正保3	1646	盛岡城時鐘铸造(延宝7年花巻城へ)
寛文5	1665	奥州街道整備に伴う松並木植樹(奥州街道名残りの松)
延宝7	1679	奥寺用水堰完成
延宝8	1680	同心組を向小路(現桜町)に移す
天和2	1682	二枚橋新田を開く
天和3	1683	鍋倉新田を開く
貞享3	1686	北上川の変流工事、三度目にして成功
元禄8	1695	如来堂(勝行院)の阿弥陀如来坐像(国重文)、花巻に安置
元禄11	1698	豊沢橋架かる
元禄14	1701	仁兵衛堰完成
元文元年	1736	湯口村新田穴堰完成
文化6	1809	花巻城大修復に着手
文政3	1820	花巻城存続問題が浮上
安政2	1855	松川滋安、郷学揆奮場を花巻城内に建てる
明治元年	1868	7月、盛岡藩が白石同盟に会盟し、秋田征伐のため花巻城士が出陣 12月、盛岡藩が降伏し花巻城を開城。真田・戸田両藩に引き渡す
明治5	1872	花巻城廃城。翌年払い下げとなる

花巻城と城下の発展

◆鳥谷ヶ崎城の時代

花巻城の前身は、鳥谷ヶ崎城といい、中世領主・稗貫氏の居城でした。稗貫氏は、鎌倉時代以来の名家でしたが、天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉の小田原城攻めに参陣しなかつたことにより、所領没収の憂目にあい、没落しました。

同年八月、鳥谷ヶ崎城には奥州仕置軍の浅野長吉（長政）が入城して、検地・刀狩を進め、稗貫氏の領地は秀吉の直轄領となりました。

しかし、浅野長吉が引き揚げると、和賀・稗貫の郎党が蜂起し、和賀氏の本城であつた北上の二子城や鳥谷ヶ崎城に攻め込みました。城内を守る浅野重吉が、奮戦している間に南部信直の援軍が駆けつけ、事

城は本丸、二の丸、三の丸の三郭からなります。本丸には天守閣は造られず、藩主が宿泊する御殿と城代以下の役人が詰める御用の間がありました。

二の丸には、和賀・稗貫二郡の北上川筋にある八通りの年貢米を収納する土蔵が造られていました。八通りの総石高は約八万石で、藩全体ではおよそ二十六万石（表高十万石）でしたので、藩内でも屈指の穀倉地帯でした。この年貢米は江戸に向けて北上川を川船で運搬されました。

三の丸には、武家屋敷が軒を連ねていました。盛岡藩は南の仙台藩と藩境を接しているため、花巻城が警備のための駐屯基地の役割を担いました。現在の花巻市役所から鳥谷崎神社に向かう通りは館小路と呼ばれ、武家屋敷の面影のある建物も残されています。

なきを得たのです。

◆花巻城に改称

天正十九年（一五九二）九戸政実の乱の平定後、稗貫・和賀・志和の三郡は南部氏の所領となりました。鳥谷ヶ崎城は伊達領と境を接する要地であつたことから、鳥谷ヶ崎城を整備して花巻城と改め、南部家の重臣・北秀愛を城代として八千石を与えま

した。秀愛は、文禄年間に城下に四日町を開町しましたが、慶長三年（一五九八）に病死してしまいます。秀愛死後、父の信愛（松斎）が跡をついで二代目城代となり、町場づくりを進め、後に「花巻開町の祖」と呼ばれるようになりました。

慶長五年（一六〇〇）、関ヶ原の戦いがおこると、和賀・稗貫の郎党が再び決起し、花巻城を夜襲しました。城内にはわずかな

武家屋敷は、城南の中小路や御田屋小路などにもあり、奥州街道沿いには吹張御組、向御組など下級武士の屋敷が配されていました。

◆城下の繁栄

軍事上の重要拠点であり、藩の財政を支える米所の管轄も行った花巻城は、舟運・陸運の便がよく、城下には一日町・四日町・八日町（川口町の一部）と呼ばれる定期市が開かれました。裏町には大工町・鍛冶町などの職人町もつくられました。

また、参勤交代が制度化されると、街道の整備も進み、城下は次第に宿場町として栄え、盛岡藩はもとより、八戸藩や松前藩主一行などの宿泊地となりました。

このように、花巻城及びその城下は、藩政時代において人口五千人を数え、盛岡に次ぐ第二の都市として繁栄を遂げたのです。

◆同心屋敷

市指定文化財 桜町四丁目地内 向御組町（現在の桜町）同心が住んでいた屋敷で、往時は奥州街道を挟んで三〇軒が軒を連ねていました。宮沢賢治詩碑入口前に移築された二軒の同心屋敷は、いずれも江戸時代末期に建てられたものです。

家臣が残っているだけで、城は次々と破られました。信愛は町家の者などの協力で何とか撃退することができたのです。近年の発掘調査の成果でも、十六世紀末から十七世紀初頭にかけて石垣の構築、土塁・堀割の強化など、城に大幅な改修が加えられたことがわかっています。

◆花巻城の構造

花巻城は、南北に約五〇〇m、東西で最大七〇〇mあり、総面積は約二〇万㎡を超える威容を誇ります。奥羽山脈から東に延びる段丘の突出部を利用した城で、下位の段丘面との比高は約十二mほどあります。西側は平坦な面が続くため、広く深い堀を巡らしています。また、城の周辺は、北上川・瀬川・猿ヶ石川・豊沢川が囲む自然の要害であり、水運の要所ともなっています。

ゆかりの文化財を訪ねて

◆桶側二枚胴具足

県指定文化財 雄山寺所有 北信愛（松斎）が愛用したと伝えられる甲冑で、安土桃山時代につくられた当世具足と呼ばれるものです。同時代には華美な具足が多い中、この具足は派手な装飾をおさえ、実用的なつくりが特徴です。



◆花巻市博物館

花巻市高松二六一八一―一 花巻地方の考古、歴史、美術工芸を展示する施設として平成十六年に開館しました。展示の中心となるのは花巻城の歴史と城下の暮らしであり、花巻城を学習するためのには是非訪れていただきたい施設です。

◆南部利剛夫人乗物

市指定文化財 鳥谷崎神社所有 安政四年（一八五七）水戸藩主徳川斉昭の三女、明子姫が盛岡藩十五代藩主利剛に輿入れの際に使われたものです。外観は総黒漆塗の本体に、金蒔絵による徳川家の家紋を配し、内部の装飾も贅をつくしています。

